

南房総のアマ：房州ちくら漁協の現況（当日レジュメの要約）

川又 俊則（鈴鹿短期大学）

0．はじめに

今年2月に武笠俊一先生と南房総で若干の調査をした簡単な報告。

1．概況（房州ちくら漁協・千倉町 <http://chikura8.awa.or.jp/gaiyo/index.html> 抜粋）

(1) 町の概要

南房総市千倉町（平成18年3月20日に、和田町・丸山町・千倉町・白浜町・富山町・富浦町・三芳村の7町村が合併し、南房総市となる）は房総半島の南端。面積36.64km²。三方を山に囲まれる。館山市に隣接。海岸線の延長は南北に14.53km。町の3分2は山林。南部は山が海岸近くまで迫り耕地が少ない。気候は黒潮の影響を強く受け、年平均気温が15～16。暖冬涼夏で年間差が比較的少ない。冬は無霜地帯のため露地花が咲く。

潮風王国の近隣では露地の花を販売
（右写真参照）



(2) 水産業の概要

天然の地形、好漁場に恵まれ、銚子・勝浦とともに千葉県有数の漁業地。町の水産業は漁船漁業、磯根漁業、水産加工業。

漁船漁業：59t～69tクラスの大型船3隻が操業。千倉漁港を根拠地として房総沖、伊豆半島、三陸沖、北海道沖へと出漁。サバ・サンマ・カツオ等を水揚げ。沿岸漁業は3t未満の小型船が主流。漁期にあわせ、アジ・サバ・イカ・トビウオ漁等。

磯根漁業：アマ（海士・海女）の素もぐりや刺し網によりアワビ・サザエ・イセエビ・海藻類などの採貝藻漁。

水産加工業：サバを原料とした節・塩辛・塩蔵品や、皮はぎの加工品は資源減少とともに衰え、年では一部輸入原料によるアジ・サバ等の加工品。

(3) 漁港

全国的に利用される第三種漁港の千倉漁港を中心に、地元の漁業を主とする第一種漁港の、白間津、大川、七浦、平磯、川口、忽戸、白子の8漁港。千倉漁港は県南随一の重要な水揚げ基地。

(4)漁船漁業

「サバ・サンマ漁」、「サバ・イカ漁」等、漁期にあわせた操業。漁業不振・魚価の低迷が続く。漁業不振脱却のため、種苗放流・漁場づくりを積極的に行い、資源保護のための乱獲防止を促進し、漁業の周年操業による効率化、漁船装備の充実と高度化による生産性の向上に資するため、制度資金の効率的な運用により経営の安定を図る。

(5)漁業後継者の育成

漁業不振・厳しい労働環境などの問題から、漁業就業者は年々減少し、高齢化が進行。水産業の担い手を確保するため、知識・技術の向上に努め、漁業への関心を持たせるために、中学生を対象に毎年水産教室を開催。資源増対策として、種苗放流を積極的に実施。種苗生産施設の整備拡充を図り、漁業経営の安定化・収入増、漁業後継者の確保を図ろうとしている。

(6)栽培漁業の振興

つくり、育てる漁業の一つとして県水産試験場は、豊かな磯根を利用し磯根漁業の振興を図るため、アワビ等の種苗生産、放流を実施。房州ちくら漁協はヒラメの養殖事業も成果を上げる。

(7)水産加工業の振興

サバを原料とした加工品を中心に発展。30余の加工業者は、消費者の嗜好の変化、原料や労働力の不足、悪臭・汚水・排水等改善すべき問題を多く抱える。新製品の開発促進、加工施設・加工基盤の整備等。平成元年度より「水産加工排水浄化装置設置事業補助制度」を発足させ、浄化装置の設置を図る。

2. 房州ちくら漁協による海女漁・他の状況報告

(2009.2.23 漁協会議室 武笠先生・川又)

(1) 保護・規制

漁解禁は 4/1～9/15。自然保護の意味で自主規制（実質的解禁 5/1-9/5）。

解禁中でも時化や第1・第3日曜日は休漁。実際の操業は 40 日くらい。

出漁時間は 8 時 30 分～15 時。

時化の時は畑作業。

ウェットスーツは禁止（スポンジ等、半パンツのみ：太股・膝上 10cm からへその線まで）。帽子は耳上が出る市販の競泳用。（水中）メガネの使用可。多くの方は金属製オーダーメイド。磯着は体操着のようなものを着る。

(2) アマとアマ漁

男性中心。海士。男性は新規（参入者）もあるが、女性はなし。連絡協議会 70 名が加盟。アマ 70 名のうち女性は 3、4 名。いずれも 60 歳代の女性。引退した人も 20 人くらい。

男のアマはアワビだけ。サザエは捕ってはいけないルール。

サザエ・アワビをとる中学生や高校生、土日を利用したサラリーマンなどは「ペーペーアマ」。その後、「サザエアマ」から「アワビアマ」、そして「オオアマ」となる。能力による（呼び方の）段階があった。ある年齢以上になると、アマを辞めて刺し網漁に。

テングサはほとんどが女性（アマが採っている）。若い人もいる。

イセエビを刺し網。千葉県は日本一の水揚げ。イセエビは 12cm 以上の規制。解禁は 8/1 ~。6・7月 は禁漁期。三重県（10/1~）より早いので、ここから三重県に出す。

(3) 歴史

昔は半農半漁。現在は日雇い労務と兼業。（アワビ漁と）刺し網や一本釣り。昔は大型船でのサバ漁や一本釣り（とアワビ漁を兼ねていた）。8月末のサンマ漁の船に乗る人もいた。

20m 以上は漁協の機械潜り。アメリカのダコタ号の技術をモンレーから持ち帰った。

(4) 種苗放流

昭和 57,8 年頃から、ツキ磯（コンクリートブロックを作って水深 2 ~ 3 m の浅い海域に投入）。

30m 四方の所に縦 80 c m × 横 60 c m × 厚さ 10 c m、重さ 120 k g の、突起のついたドブ板のような平板（ひらばん）を 1500 枚ずつ 3 カ所に設置。もとは漁協が設置していたが、現在はアマ自身が金を出しあい行っている。アワビは、3 年ごとに放流場所を変える。一般漁場には設置していない。（子アワビでそこから）逃げていくのも半分くらい。25%（のアワビが）がその漁場（で大きくなる）。アワビ 100 個のうち 30-40% が定着し、回収率は 10-30%。

— 昨年（平成 19 年）は過去最高の水揚げ。昨年の放流は 5/8。

千葉県（のアワビ漁）は 3 分の 1 が放流。



(5) 漁協

（ちくら漁協）の水揚げのうち、3 ~ 4 割は自営定置網。イワシやアジ中心。5 割がアワビやサザエ、イセエビ。地域外・一本釣りが 1 割強。定置網とアワビ等がアマの水揚げ。アマ漁中心。

「シメサバ」はもともとブランド化していた。

cf 「房州黒アワビ」（千葉ブランド水産物認定書・・・平成 18 年 6 月「千葉ブランド水産物認定制度」が開始され、「生鮮水産物」8 品目の 1 つとして認定された（白浜町漁業協同組合・房州ちくら漁業協同組合・和田町漁業協同組合）

(6) 密漁

運営協議会で対策。（密漁者を）警察に突き出すこともある。各地区で監視員を決めて監

視をしている。

3 . 白浜海女まつり

昭和 39 (1954) 年、第 1 回開催。最初は「白浜盆まつり」として、地元の民謡「白浜音頭」がヒットしたため、観光盆踊り大会。第 3 回目から海女の参加を依頼し、「海女まつり」と名称変更。

今年は 7 月 20・21 日、(野島崎) 灯台前広場で開催。2 日間開催でのべ 3 万人の間の観光客。

クライマックスとして行われる「海女の夜泳 (大遊泳)」は、海で遭難した人を暗くなってから探すとき、海女が松明をもって仲間が海辺に打ち上げられていないか探したものをを再現。野島崎灯台近くの家 (西港) で、松明を持って入水し輪になって泳ぐ。40 ~ 80 歳くらいまで約 70 人が参加。平成 21 年で第 45 回。

4 . 課題

- アマの方々へのインタビュー調査
- 田仲のよさんの時代との比較
- 鳥羽・志摩との比較

以上

